教科課目	関係法規・制度		
履修年次	２年次	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	須田　宏司	有	保健所勤務	３０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	美容師の業務に関係する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解し、あわせて、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について自覚する。 美容の業務に関する規定内容を正確に理解させるとともに、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握する。
到達目標	衛生行政 ①社会生活の中での法律、政治、行政の役割、機能など衛生法規を学ぶために必要な基礎的事項について理解する。②我が国の行政の仕組み、国の行政と地方の行政との関係などについて理解する。③衛生行政とはどのような行政か、衛生行政の目標、衛生行政の種類など衛生行政の意義について知る。④衛生行政を行う行政機関について、特に美容業と関係の深い保健所について、その任務や活動及び組織を理解する。 美容師法 ①美容師法がどのような沿革を経て現在の姿になったかを知り、これらの法律の目的と意義について理解する。②美容に関する用語が法律でどのように定義されているかを理解する。③美容師について、その意義、免許制度、免許手続、免許の欠格要件、免許の登録などを理解する。④美容師試験について、その意義、試験の内容及び受験の手続を理解する。⑤美容師養成施設について、その課程、教科課目などを知る。⑥美容師の業務上の遵守事項、業務を行う場所などに関する法律の規定について理解する。特に、美容師の講じるべき衛生措置について、その意義と内容を十分に理解し、公衆衛生における美容師の職責を自覚する。⑦美容所の開設などの届出、施設の検査確認、美容所について講じなければならない衛生措置など美容所に関する規制の内容を十分に理解する。⑧美容師の免許取消、業務停止及び再免許を与えることについて、その内容を理解する。⑨管理美容師の業務について、その内容を理解する。⑩美容所の閉鎖命令について、その内容を理解する。⑪美容師法の罰則について、その内容を理解する。 その他の関係法規 ①美容業を行う上で密接な関係がある生活衛生関係営業の適正化及び振興に関する法律及び消費者保護関連法規について、その意義と内容とを十分に理解する。②美容師法以外の美容に関係のある法律（地域保健法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、労働基準法、株式会社日本政策金融公庫法及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律等）についてその目的とあらましを知る。③美容師法と理容師法の法令上の違いについて知る。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。美容所の衛生措置などについて、その意義と内容を理解し、美容師の職責と倫理規範を学ぶための自由討論を行う。必要に応じて美容所を見学し、実際の美容の業務内容、業務上注意すべき事項などを理解する。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１章 法制度の概要	須田

	第１節 社会生活における法の役割 ①人と社会生活 ②法とは何か 第２節 法の形式 ①憲法と日本の法令体系 ②条約 ③法律 ④命令 ⑤自治法規 第３節 衛生法規の概要 ①衛生法規の意義 ②衛生法規の分類と生活衛生法規 第４節 理容師法・美容師法と附属法令 第２章 衛生行政の概要 第１節 衛生行政の意義と歴史 ①行政とは何か ②衛生行政の意義 ③我が国における衛生行政の歴史 第２節 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 ①衛生行政の分類 ②生活衛生行政 第３節 衛生行政を担う行政機関 ①一般衛生行政の仕組み ②厚生労働省の役割 ③都道府県及び市町村の役割 ④保健所の役割と機構 第３章 理容師法・美容師法 第１節 目的 第２節 用語の定義 ①理容・美容 ②理容師・美容師 ③理容所・美容所 第３節 人（理容師・美容師）に関する規定 ①概説 ②養成施設の入所資格 ③養成施設 ④試験 ⑤免許と登録 ⑥理容師・美容師の義務 ⑦業務停止、免許取消及び再免許 ⑧管理理容師・管理美容師 第４節 施設（理容所・美容所）に関する規定 ①概説 ②理容所・美容所の開設 ③開設者が講ずべき衛生措置 ④理容所・美容所以外での業務 第５節 立入検査と環境衛生監視員 第６節 違反者等に対する行政処分 ①違反者等に対する行政処分 ②不利益処分を行う場合の手続き ③違法または不当な処分等についての審査請求 第７節 罰則 ①罰則について ②理容師法・美容師法の罰則 第４章 関連法規 ①理容業・美容業の運営に関連する法律 ②理容業・美容業の衛生に関連する法律 ③理容業・美容業の消費者保護に関連する法律	
成績評価の方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『関係法規・制度』公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献	『美容師法関係法令集』公益社団法人日本理容美容教育センター	

教科課目	衛生管理		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	３単位	授業形態	講義
授業時数	９０時間（１年次６０時間、２年次３０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	鳥海　良寛	有	薬剤師	９０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	１．公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させること。特に、環境衛生の意義と目的とについて、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させること。 ２．美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させること。特に、美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させるとともに､その適正な実施方法を身に付けさせること。
到達目標	公衆衛生概説 ①公衆衛生の意義について理解し、公衆衛生が日常生活あるいは美容業とどのように結びつくか、公衆衛生の発展向上のために美容師として何をなすべきかを理解する。②公衆衛生の発展の歴史を概観し、公衆衛生の思想がどのように発展してきたかを知る。③公衆衛生は、対人的な予防医学と対物的な環境衛生とに大別されることを知り、さらに環境衛生が健康で文化的な生活の基盤をなすものであることを理解する。④保健所の機能、組織、業務などについて知り、保健所が地域の保健衛生行政において、中核的存在であること及び美容業と保健所とは密接な関係があることを理解する。 感染症 ①美容の業務を行う上で､どのような感染症に注意すべきかを具体的に示すとともに、その予防策について系統的に理解する。②美容所における衛生措置、特に消毒の意義について、感染症対策と関連付けて理解する。 環境衛生 ①環境衛生の意義と内容を理解し、美容所において特に注意しなければならない点について理解する。②美容所における環境衛生、特に採光、照明、換気、床などの構造設備、衣服の衛生について理解する。 衛生管理技術 ①美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について理解する。②消毒方法の種類、原理、特徴について具体的に理解する。③美容器具などの対象物の材質、構造などに応じた適切な消毒方法の選択と適正な実施方法について学ぶ。④美容所において用いられている代表的な消毒方法について、正しい操作方法及び注意事項を確実に身に付ける。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、各種の統計資料、映像などの視聴覚教材を用いたり、実験を行ったり、保健所、美容所への見学などを行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	衛生管理は美容業務の基本であるので、美容との関連に配意し、具体的かつ実践的な知識・技術の習得に努めてください。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	１編 公衆衛生 １章 公衆衛生の概要 １節 公衆衛生の意義と課題	鳥海

	２節 公衆衛生発展の歴史 ①欧米の公衆衛生の歩み ②我が国の公衆衛生の歩み ③消毒法の歴史 ３節 理容師・美容師と公衆衛生 ①歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生 ②公衆衛生と理容師・美容師 ４節 保健所と理容業・美容業 ２章 保健 １節 保健 ①母子保健 ②成人・高齢者保健 ③精神保健 ２編 環境衛生 １章 環境衛生 １節 環境衛生の概要 ①環境衛生の内容 ②環境衛生の目的と意義 ③環境衛生活動 ２節 空気環境 ①空気と健康 ②温度、湿度、気流（風）と健康 ３節 衣服・住居の衛生 ①衣服の衛生 ②住居の衛生 ４節 上・下水道と廃棄物 ①上水道 ②下水道 ③廃棄物 ５節 衛生害虫とネズミ ①衛生害虫 ②ネズミ ６節 環境保全 ①水質汚濁 ３編 感染症 １章 感染症の総論 １節 人と感染症 ①感染症発見の歴史 ②感染症と法律 ③感染症の分類 ２節 病原微生物 ①微生物の種類 ②微生物の形と大きさ ③微生物の構造 ④微生物の増殖と環境の影響 ３節 感染症の予防 ①微生物の病原性と人体の感受性 ②汚染、感染及び発病 ③常在細菌叢 ④免疫と予防接種 ⑤感染症発生の要因 ⑥感染症予防の３原則 ２章 感染症の各論 １節 理容・美容と感染症 ２節 主な感染症 ①空気・飛沫を介して感染する感染症 ②飲食物を介して感染する感染症 ③血液等を介して感染する感染症 ④動物・節足動物を介して感染する感染症 ３節 具体的な対策の例 ①標準予防策 ②咳のある客への対応 ③病変の皮膚をもつ客への対応 ④嘔吐をした客への対応 ４編 衛生管理技術 １章 消毒法総論 １節 消毒とは ①病原微生物と非病原微生物 ②消毒の原理 ２節 消毒の意義 ①汚染、感染、発病と消毒の意義 ②殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義 ３節 理容・美容の業務と消毒との関係 ①消毒に関連のある法の規定 ②消毒を怠った場合の危険と理容師・美容師の責任 ４節 消毒法と適用上の注意 ①消毒法の種類 ②消毒（殺菌）に必要な条件 ③病原微生物の抵抗力 ④消毒薬・消毒薬使用液の使用、保存上の注意 ２章 消毒法各論	

	１節 理学的消毒法（殺菌法） ①紫外線消毒 ②煮沸消毒 ③蒸気（大気圧下の蒸気）消毒 ④その他の理学的消毒法 ２節 化学的消毒法（殺菌法） ①アルコール類による消毒 ②次亜塩素酸ナトリウム（塩素剤）による消毒 ③界面活性剤（逆性石けん、両性界面活性剤）による消毒 ④グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒 ⑤その他の消毒薬 ３節 すぐれた消毒法とその実施上の注意 ①すぐれた消毒法の条件 ②消毒を行う際の注意事項 ３章 消毒法実習 １節 各種消毒薬 ①消毒薬の概要 ②器具の使い方 ③常備しておくとよい消毒薬と希釈液の濃度 ④消毒薬希釈法 ２節 理容所・美容所の消毒の実際 ①理容所・美容所における消毒の原則 ②理容所・美容所の消毒設備 ③理容・美容器具類の消毒法（布片などの用具を含む） ④理容師・美容師の手指の消毒 ⑤その他のものの消毒 ⑥理容所・美容所の消毒の現状 ３節 理容所・美容所の清潔法の実際 ①清潔保持と清掃 ②洗剤による清浄法 ③洗い場の構造と清潔保持 ④清掃 ⑤刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒 ⑥ハエやカなどの駆除 ５編 衛生管理の実践例 １章 理容所及び美容所における衛生管理要領 １節 第１　目的～第４　衛生的取扱い等 ２節 第５　消毒～第６　自主的管理体制 ２章 理・美容所の自主管理点検表	

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『衛生管理』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	保健		
履修年次	通年	履修区分	必修
単位数	３単位	授業形態	講義
授業時数	９０時間（１年次３０時間、２年次６０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	須田　宏司	有	保健所勤務	９０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	美容技術の基礎となる人体について、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得。 美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解する。
到達目標	人体の構造及び機能 ①人体各部の名称並びに頭部、顔部及び頸部の解剖学的特徴について理解する。②美容の施術の際に使う骨格及び筋について種類、構造機能について理解する。③人体（頭部、顔部及び頸部に限る）の骨格、筋の種類、構造、機能について理解する。④人体（頭部、顔部及び頸部に限る）の神経機能の仕組みについて理解する。 皮膚及び皮膚付属器官の構造及び機能 ①皮膚、皮膚付属器官（毛髪、爪、脂腺、汗腺など）の構造について理解する。②皮膚の生理的作用について理解し、美容との関係について学ぶ。③毛髪、爪の生理的意義と特性について、美容技術との関連に配意しつつ理解する。 皮膚及び皮膚付属器官の保健衛生 ①皮膚、皮膚付属器官の状態に影響を与える因子にはどのようなものがあるか知る。 ②皮膚、皮膚付属器官を健康に保つための方法について、美容の施術を安全かつ効果的に行うために注意すべき事項について学び、特に、毛髪の保健衛生については、美容技術の基礎であることから、重点をおいて学ぶ。 皮膚及び皮膚付属器官の疾患 ①主な皮膚、皮膚付属器官の疾患の種類、原因、症状について、美容の施術と関連付けながら理解する。②美容で使用する香粧品等によるかぶれ・アレルギーについて、その発生機序と予防法との概略を確認し、美容の業務において注意すべき点は何かを学ぶこと。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、各種の模型、標本、映像などの視聴覚教材を用いたり、実験や観察を行って学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	①本課目は、安全で効果的な美容技術を提供するための基礎となるものであるから、特に、皮膚、毛髪などに関する講義に当たっては、常に美容技術との関連に配意してください。 ②皮膚、毛髪の保健衛生については、衛生管理と関連させながら体系的な知識の習得に努めてください。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１編　人体の構造及び機能 第１章　頭部、顔部、頸部の体表解剖学 （１）人体各部の名称　（２）頭部、顔部、頸部の体表解剖学 第２章　骨格器系 （１）骨の種類と構造　（２）骨の連結　（３）骨格器系とそのはたらき 第３章　筋系 （１）筋の種類とその特徴　（２）主な骨格筋とそのはたらき （３）表情筋と表情運動　（４）理容・美容の作業と筋疲労 第４章　神経系 （１）神経系の成り立ち　（２）中枢神経とそのはたらき （３）末梢神経とそのはたらき	須田

	第５章　感覚器系 （１）視覚　（２）聴覚　（３）平衡感覚　（４）味覚　（５）嗅覚 （６）皮膚感覚 第６章　血液・循環器系 （１）血液のあらまし　（２）血液循環の仕組み　（３）血液の循環経路 （４）心臓と血管のはたらき　（５）リンパ管系の仕組みとはたらき 第７章　呼吸器系 （１）呼吸器系のあらまし　（２）気道　（３）肺の仕組みとガス交換 （４）呼吸運動 第８章　消化器系 （１）消化器系のあらまし　（２）消化管の仕組み （３）消化管のはたらき　（４）消化と物質代謝 第２編　皮膚科学 第１章　皮膚の構造 （1）皮膚の表面　（2）皮膚の断面　（3）表皮　（4）表皮と真皮の境　（5）真皮　（6）皮下組織　（7）皮膚の部位差 第２章　皮膚付属器官の構造 （１）毛　（２）脂腺（皮脂腺）　（３）汗腺　（４）爪 第３章　皮膚の循環器系と神経系 （１）皮膚の血管　（２）皮膚のリンパ管　（３）皮膚の神経 第４章　皮膚と皮膚付属器官の生理機能 （１）対外保護作用　（２）体温調節作用　（３）知覚作用と皮膚反射 （４）分泌排泄作用　（５）呼吸作用　（６）吸収作用　（７）貯蔵作用 （８）免疫・解毒・排除作用　（９）再生作用　（１０）毛のはたらき （１１）爪のはたらき 第５章　皮膚と皮膚付属器官の保健 （1）皮膚と全身状態　（2）皮膚と精神　（3）皮膚と栄養　（4）皮膚とし好品　（5）皮膚と体内病変　（6）皮膚と水分と脂の状態（7）皮膚・付属器官とホルモン　（8）皮膚の保護と手入れ（9）毛の保護と手入れ（１０）爪の保護と手入れ（１１）子どものおしゃれによる皮膚トラブル 第６章　皮膚と皮膚付属器官の疾患 （1）皮膚の異常とその種類　（2）皮膚疾患の原因　（3）皮膚疾患の治療法　（4）皮膚炎と湿疹・蕁麻疹・薬疹　（5）口唇の疾患　（6）温熱・寒冷による皮膚障害　（7）角化異常による皮膚疾患　（8）色素異常による皮膚疾患　（9）血管腫（アカアザ）　（１０）脂腺母斑　（１１）下肢静脈瘤　（１２）分泌異常による皮膚疾患　（１３）化膿菌による皮膚疾患（１４）ウイルスによる皮膚疾患　（１５）真菌による皮膚疾患　（１６）衛生害虫による皮膚疾患　（１７）感染症の皮膚疾患の予防　（１８）毛と爪の疾患　（１９）皮膚の腫瘍	

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『保健』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	香粧品化学		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	講義
授業時数	６０時間（１年次３０時間、２年次３０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	福島　悟子			６０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	①香粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、これを正しく使用するためには正確な知識と適正な技術とを身に付けることが重要であることを認識させる。 ②美容の業務を安全かつ効果的に行うためには、香粧品の正確な科学的知識と合理的な取扱方法を習熟させ、あわせて、香粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。
到達目標	香粧品の化学 ①物質の相変化、溶液、酸アルカリ、酸化還元反応など化学の基本原理について、美容技術の実例に即して理解する。 ②化学薬品の取扱い、溶液の調整法など化学の基本操作を身に付ける。 ③石けん、洗剤、化粧水、ヘアシャンプー、ヘアリンス、整髪料、養毛剤、染毛剤、パーマ液など美容において使用される主な香粧品の種類、使用目的、成分、作用原理、使用上の注意について理解する。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、各種の模型、映像などの視聴覚教材を用いたり、実験や観察を行って学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	常に美容の業務との関連性を念頭に置きつつ、香粧品化学に関する正確な知識と理解とが美容師の業務を全うするために重要であることを認識して履修してください。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	１章 香粧品概論 １節 香粧品の社会的意義と品質特性 ①香粧品の社会的意義　②香粧品の品質と必要条件 ２節 香粧品の規制 ①香粧品の定義　②香粧品の製造販売の規制　③香粧品の品質等の規制　④香粧品の表示・広告の規制 ３節 香粧品の安定性と取り扱い上の注意 ①香粧品の安定性　②香粧品の経時変化　③香粧品の使用上、取り扱い上の注意 ４節 香粧品と安全性 ①香粧品と安全性　②表示成分と安全性　③香粧品によるトラブル ２章 香粧品用原料 １節 香粧品の対象となる人体各部の性状 ①香粧品の種類と機能　②皮膚と水　③頭皮や毛髪の健康な状態　④爪の性状　⑤まぶたや口唇の性状　⑥香粧品のなりたち ２節 水性原料 ①水　②エタノール（エチルアルコール） ３節 油性原料 ①油脂　②ロウ類　③炭化水素　④その他の油性原料　⑤油性原料の機能	福島

	４節 界面活性剤 ①界面活性剤の基本的性質　②界面活性剤の種類　③界面活性剤の香粧品への応用 ５節 高分子化合物 ①高分子化合物の種類と特性　②高分子化合物の香粧品への応用 ６節 色材 ①色材と香粧品　②無機顔料　③有機合成色素（タール色素）　④光輝性顔料（パール顔料）　⑤天然色素 ７節 香料 ①香料と香粧品　②香料の種類　③調合香料 ８節 その他の配合成分 ①香粧品原料の品質保持に用いられる配合成分　②香粧品配合成分があたえる機能　③その他の特殊成分 ９節 ネイル、まつ毛エクステンション用材料 ①合成樹脂　②接着剤　③塗料 ３章 基礎香粧品 １節 皮膚清浄用香粧品 ①皮膚の汚れと清浄作用　②石けんの種類とその性質　③その他の清浄剤 ２節 化粧水 ①化粧水の種類と機能性 ３節 クリーム・乳液 ①クリーム・乳液の皮膚への作用　②クリームの種類と機能　③乳液の種類と機能 ４節 その他の基礎香粧品 ①シェービング用香粧品（理容）　②化粧液（美容液、美容エッセンス）　③打粉（ベビーパウダー類）　④パック剤 ４章 メイクアップ用香粧品 １節 メイクアップ用香粧品の種類と剤形 ２節 ベースメイクアップ香粧品 ①おしろい（白粉）類　②ファンデーション類 ３節 ポイントメイクアップ香粧品 ①紅類　②アイメイクアップ香粧品　③ネイル技術用香粧品類（マニキュア製品） ５章 頭皮・毛髪用香粧品 １節 シャンプー剤 ①シャンプー剤　②ヘアリンス剤　③ヘアトリートメント剤 ２節 スタイリング剤 ①スタイリング剤の機能　②油性スタイリング剤　③液状スタイリング剤　④高分子物質を基材とするスタイリング剤 ３節 パーマ剤 ①パーマの原理　②パーマ剤の分類　③パーマ剤第１剤　④パーマ剤第２剤　⑤パーマ剤の使用上の注意 ４節 ヘアカラー製品 ①ヘアカラー製品の種類と染毛メカニズム　②一時染毛料　③半永久染毛料　④脱色剤・脱染剤　⑤永久染毛剤　⑥ヘアカラー製品の使用上の注意　⑦その他のヘアカラー製品 ５節 育毛剤 ①脱毛の原因　②育毛剤の種類と機能　③育毛・養毛剤の原料 ６章 芳香製品と特殊香粧品 １節 芳香製品 ①香水　②オーデコロン　③その他の芳香製品　④芳香製品の効用と使用上の注意 ２節 特殊香粧品	

	①サンケア製品　②美白用香粧品　③制汗・防臭剤　④ニキビ用香粧品	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『香粧品化学』公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	文化論		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	講義
授業時数	６０時間（１年次３０時間、２年次３０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	筒井　義明	有	美術家	６０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	①美容業の使命の一つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命達成のために必要な美的感覚を身に付け、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養う。 ②美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。
到達目標	美容文化史 ①美容文化の歴史及び沿革について知る。②我が国における美容ファッションの変遷について知る。③海外における美容ファッションの変遷について知る。④流行を追う心理、流行が社会に及ぼす影響、流行が美容業において占める意義と役割について知る。 服飾 ①服飾の原理、美容における服飾の意義などについて理解する。②服飾の歴史のあらまし、衣服の種類、衣服に関するエチケットなどについて学ぶ。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。課題を与えて学生同士に討論させ、あるいは、レポートを作成させ、自主的な判断力の向上を図るような学習方法を用いる。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１章 総論 　第１節 総論 第２章 日本の理容業・美容業の歴史 　第１節 理容業・美容業の発生 　第２節 江戸時代の理容業・美容業 　第３節 近代の理容業・美容業 　第４節 現代の理容業・美容業 　日本の理容業・美容業の歴史年表 第３章 ファッション文化史　日本編 　第１節 縄文・弥生・古墳時代 　第２節 古代（飛鳥・奈良・平安時代） 　第３節 中世（平安末・鎌倉・室町・戦国時代） 　第４節 近世Ⅰ（戦国末・安土桃山時代） 　第５節 近世Ⅱ（江戸時代） 　第６節 近代（明治・大正・昭和２０年まで） 　第７節 現代Ⅰ（１９４５年～１９５０年代） 　第８節 現代Ⅱ（１９６０年～１９７０年代） 　第９節 現代Ⅲ（１９８０年～１９９０年代） 　第 10 節 現代Ⅳ（２０００年代以降） 第４章 ファッション文化史　西洋編 　第１節 古代エジプト	筒井

	第２節 古代ギリシャ・ローマ 第３節 古代ゲルマン 第４節 中世ヨーロッパ 第５節 近世Ⅰ（１６世紀） 第６節 近世Ⅱ（１７世紀） 第７節 近世Ⅲ（１８世紀） 第８節 近代Ⅰ（１８世紀末～１９世紀初め） 第９節 近代Ⅱ（１９世紀） 第１０節 現代Ⅰ（１９１０年代～１９２０年代） 第１１節 現代Ⅱ（１９３０年代～１９４０年代前半） 第１２節 現代Ⅲ（１９４０年代後半～１９５０年代） 第１３節 現代Ⅳ（１９６０年代） 第１４節 現代Ⅴ（１９７０年代） 第１５節 現代Ⅵ（１９８０年代） 第１６節 現代Ⅶ（１９９０年代～２０１０年） 第５章 礼装の種類 第１節 和装の礼装 第２節 洋装の礼装	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『文化論』 公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	美容技術理論		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	５単位	授業形態	講義
授業時数	１５０時間（１年次９０時間、２年次６０時間）		

担当教員	氏名		担当教員の主な実務経験	授業時間
	小田嶋　美佐子	有	美容師	
	佐藤　理恵	有	美容師	
	中村　あかね	有	美容師	

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	１．美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付ける。 ２．美容の業務を安全かつ効果的に行うため、美容器具の正確な科学的知識と合理的思考に裏付けされた正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して習得する。あわせて、美容器具による危害を防止するための使用上の注意を学ぶ。 ３．優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことをしっかりと理解する。
到達目標	美容で使用する器具 ①美容で使用する主な機械器具について物理の基本的事項を学び、人間の手と器具の働き、美容器具の種類と特徴などを理解する。②コーム、ヘアブラシ、はさみ、レザー及びヘアアイロンについて、その種類、各部の名称、使用目的、形態と機能、選定方法、基本的操作方法、手入れ方法などを理解する。また、刃物、はさみの材料として使用される金属の物性などについて理解する。③ヘアドライヤー、ヘアスチーマー、ブラシ、被布及び布片類について、その種類、使用目的、形態と機能、手入れ方法などを理解する。 基礎技術 美容技術の意義、技術を行う場合の心得及び技術者の位置と姿勢、人体各部の名称や身体の機能その他美容技術を行う場合に考慮しなければならない基礎知識を理解する。 頭部、顔部及び頸部技術 ①スキャルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー・ヘアリンス技術、ヘアカッティング、パーマネントウェービング、ヘアセッティング、ヘアカラーリングなどの基本的な頭部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点などについて理解する。②メイクアップ、まつ毛エクステンション、その他基本的な顔部及び頸部技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点などについて理解する。 特殊技術 エステティック技術、ネイル技術などの美容の特殊技術の目的、種類、特徴、技術上の注意点などについて理解する。 和装技術 日本髪の基礎知識と技術の実際、かつらの種類、あわせ方、かぶせ方、和装に関する一般知識、着付け技術について理解する。 美容デザイン ①美容におけるヘアデザインの造形の意義とその応用などについて理解する。②色彩の原理と美容における応用を理解する。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、各種の美容実習用教材を用いたり、観察を行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	この授業課目は、美容技術の裏付けとなる理論であり、「なぜそうなるのか」を解明できる大切なヒントが詰まった授業です。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	美容技術理論１ 序章　美容技術理論を学ぶにあたって 　１　美容理論と美容技術 　２　美容技術における作業姿勢	中村

	3　美容技術に必要な人体各部の名称	
	１章　美容用具	中村
	1　美容技術における用具	
	2　コーム	
	3　ブラシ	
	4　シザーズ	
	5　レザー	
	6　ピン類、ヘアクリップ	
	7　ロッド	
	8　ローラー	
	9　ヘアアイロン	
	10　ヘアドライヤー	
	11　ヘアスチーマー	
	12　遠赤外線機	
	２章　シャンプーイング	中村
	1　シャンプーイング総論	
	2　サイドシャンプー	
	3　バックシャンプー	
	4　リンス・コンディショナー・トリートメント	
	5　スキャルプトリートメント	
	6　ヘッドスパ	
	３章　ヘアデザイン	中村
	1　美容とデザイン	
	４章　ヘアカッティング	中村
	1　ヘアカッティングとは	
	2　シザーズとレザーの扱い方	
	3　美容刃物	
	4　ヘアカッティングの正しい姿勢	
	5　ブロッキング	
	6　ヘアカッティングの基礎理論	
	7　ベーシックなカット技法	
	8　シザーズによるカット技法	
	9　レザーによるカット技法	
	５章　パーマネントウエービング	中村
	1　パーマネントウエーブの歴史と現在	
	2　パーマネントウエーブの理論	
	3　パーマ剤の分類	
	4　パーマ剤に関する注意事項	
	5　パーマネントウエーブ技術	
	6　ワインディングのバリエーション	
	7　縮毛矯正（高温整髪用アイロン使用）	
	６章　ヘアセッティング	中村
	1　ヘアセッティングとは	
	2　ヘアパーティング	
	3　ヘアシェーピング	
	4　ヘアカーリング	
	5　ヘアウエービング	
	6　ローラーカーリング	
	7　ブロードライ	
	8　アイロンセッティング	
	9　バックコーミング	
	10　アップスタイル	
	11　ウイッグとヘアピース	
	７章　ヘアカラーリング	中村
	1　ヘアカラーリング総論	
	2　ヘアカラーの種類	
	3　ヘアカラーのタイプ別特徴	

	４　染毛のメカニズム ５　色の基本 ６　毛髪のレベルとアンダートーン ７　パッチテスト（皮膚貼布試験） ８　染毛剤使用時の注意事項 ９　ヘアカラーリングの道具 10　酸化染毛剤（アルカリ性タイプカラー）の技術手順 11　酸性染毛剤の技術手順 12　ヘアブリーチ（脱色） 参考資料 シャンプー剤の構成成分 ヘアトリートメント剤の構成成分 美容技術理論２ ８章　エステティック １　エステティック概論 ２　皮膚の生理と構造 ３　カウンセリング ４　美容におけるマッサージ理論 ５　フェイシャルケア技術 ６　フェイシャル及びデコルテマッサージ ７　フェイシャルパック ８　ボディケア技術 ９　ボディマッサージ ９章　ネイル技術 １　ネイル技術概論 ２　ネイル技術の種類 ３　爪の構造と機能 ４　爪のカット形状 ５　ネイル技術と公衆衛生 ６　カウンセリング ７　ネイルケア ８　アーティフィシャルネイル ９　手と足のマッサージ １０章　メイクアップ １　メイクアップ概論 ２　顔の形態学的な観察 ３　メイクアップと色彩 ４　皮膚の生理と構造 ５　メイクアップの道具 ６　スキンケア ７　ベースメイクアップ ８　アイメイクアップ ９　アイブロウメイクアップ 10　リップメイクアップ 11　ブラッシュオンメイクアップ 12　まつ毛エクステンション １１章　日本髪 １　日本髪の由来 ２　日本髪の各部の名称 ３　日本髪の種類と特徴 ４　日本髪と調和 ５　日本髪の装飾品 ６　日本髪の結髪道具 ７　日本髪の結髪技術 ８　日本髪の手入れ ９　かつら １２章　着付けの理論と技術	佐藤 佐藤 佐藤 佐藤

	1　着付けの目的 2　礼装 3　着物と季節 4　着物のいろいろ 5　帯 6　小物 7　着物各部の名称 8　着物のたたみ方 9　着付けの一般的要領 10　留袖着付け技術 11　振袖着付け技術 12　帯締め、帯揚げの結び方 13　男子礼装羽織、袴着付け技術 14　羽織のひもの結び方 15　女子袴着付け技術 16　婚礼着付けの際の注意事項 17　和装花嫁 18　洋装花嫁（ウエディングドレスの知識） 参考資料 和装生地の知識 季節と生地・仕立て ＴＰＯ別女子和装基本ルール ＴＰＯ別男子和装基本ルール 美容技術理論１ 美容技術理論２	小田嶋
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『美容技術理論１』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容技術理論２』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容実習１』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容実習２』　公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	運営管理		
履修年次	２年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	今野　悦子			３０時間

授業概要	美容師国家試験（筆記）出題課目、美容師養成施設必修課目
授業の目的	１．経営管理及び労務管理の基本的事項を学習することによって、美容業における運営管理手法の重要性を認識させ、美容所の運営に役立たせること。 ２．美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に着けさせること。
到達目標	経営管理 ①経営戦略及び経営管理の基本的理論について、美容業における実例を交えて理解する。②美容所の運営に必要な経理事務に関する基本的事項を学ぶ。 労務管理 ①労務管理の基本的理論について、美容業における実例を交えて理解する。②従業者の社会保険、雇用保険の仕組みについて学ぶ。 接客 ①社会人としての一般常識を理解し美容業における接客の意義と技術について具体的事例を挙げながら学び、習得する。②苦情処理など消費者対応の基本的事項について、美容業における実例を交えて学ぶ。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、美容所の運営の実態を見学し、美容の運営管理について、具体的な知識を習得する。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	経営管理を単に理論として理解するだけにとどまらず、美容所の経営に実地に活用する能力を高めてください。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１編 経営者の視点 第１章 経営とは・経営者とは 第１節 経営が必要とされる理由 ①経営とは何か ②経営の最大のテーマ：継続企業の原則 第２節 継続が難しい理由＝経営が必要な理由 ①変化 ②競争 ③経営の必要性 第３節 経営とは何か ①経営の目的：継続を実現するために ②経営の成果：利益とは何か 第４節 経営資源と経営計画 ①経営資源 ②経営計画 第５節 経営戦略 ①経営戦略とは ②経営戦略の視点 ③経営者の視点 第６節 経営戦略が目指すもの　顧客に選ばれるよい店の実現 ①よい店をどう実現するか ②クオリティの実現 第２章 理容業・美容業の経営について 第１節 業界の概要 ①理容・美容業界の現状 ②今日の理容店・美容店 第２節 競争の変化 ①競争 ②競争の方向性の変化 第３節 サービスとしての理容・美容	今野

①サービスは経験の提供 ②顧客が求めるサービス ③サービスを実現するもの
第４節 理容業・美容業の顧客について
①顧客が来るのは当たり前ではない ②理容・美容の顧客の特長
第３章 資金の管理
第１節 資金管理の重要性
①資金管理とは ②会計の活用
第２節 収支と損益
①収支とは ②損益とは ③収支と損益が異なる例
第３節 会計の考え方
①会計が目指しているもの ②会計の考え方 ③会計の応用
第４節 コストを管理する
①利益の仕組み ②コストの仕組み ③コストを削減するために
第５節 税金について
①税金の種類とその内容 ②税金を支払うタイミング ③税金を支払わないときの罰則
第２編 人という資源　従業員としての視点
第１章 人という資源
第１節 人という資源とは
①人という資源の特徴と課題 ②労務管理の目指すもの
第２節 人の能力を高める
①採用について ②理容業・美容業のトレーニング ③トレーニングと資格制度
第３節 人をやる気にさせるために
①やる気とは何か ②やる気を高める
第４節 給与
①給与の役割 ②給与の設計
第５節 待遇・福利厚生
①評価・待遇 ②福利厚生 ③休暇
第６節 労働者の権利
①働く者の権利 ②適正な労使関係の構築 ③新しい問題への対応
第２章 健康・安全な職場環境の実現
第１節 健康管理の基礎
①健康管理とその仕組み ②健康診断
第２節 理容・美容の仕事と健康
①人的サービス・顧客に求められるサービスゆえの健康課題 ②職務の特性と健康課題 ③経営者としての責任
第３節 理容業・美容業に特徴的な健康課題
①理容・美容の仕事と疲労 ②理容師・美容師に多い健康問題
第４節 理容・美容の作業環境に関する健康問題
①採光・照明 ②換気 ③温度・湿度
第３章 従業員としての視点から
第１節 社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任
①社会人としての責任 ②理容・美容という仕事ゆえの責任 ③新しい責任
第２節 社会保険①　～公的年金～
①国民年金 ②厚生年金保険
第３節 社会保険②　～医療保険～
①健康保険 ②国民健康保険 ③介護保険
第４節 社会保険③　～労働保険～
①雇用保険 ②労働者災害補償保険
第５節 キャリアプランの重要性
①進むべき道を考える ②準備 ③キャリアプランのメリット ④自己管理・将来設計

第６節 仕事をするうえで考えるべきこと
①サービス提供者としての役割とは ②仲間と働くうえでの役割
第３編 顧客のために
第１章 サービス・デザイン
第１節 顧客が求める価値
①サービス・デザインとは ②サービス・デザインの要点
第２節 価値の実態
①価値の構造 ②競争の現実
第３節 顧客満足の実現のためのシステム
①価値を実現するシステム ②顧客満足とシステム
第４節 最も重要な価値：人
①人の役割 ②最も目立つ価値
第５節 価値の多様性　顧客が求めるもの
①顧客が求めている価値 ②実現すべき価値は多種多様
第６節 サービスの範囲
①サービスの範囲とは ②サービスの範囲と経営
第２章 マーケティング
第１節 理容業・美容業のマーケティング
①理容業・美容業のマーケティングの特徴 ②マーケティングの要点
第２節 マーケティング・ミックス
①マーケティング・ミックスの要因 ②マーケティング・ミックスと市場
第３節 マーケティング・ミックスの要因　短期的要因①
①短期的要因と長期的要因 ②価値 ③価格（料金）
第４節 マーケティング・ミックスの要因　短期的要因②
①顧客とのコミュニケーション ②アウトバウンド・コミュニケーション ③インバウンド・コミュニケーション ④コミュニケーションのポイント ⑤コミュニケーションに関する留意点
第５節 マーケティング・ミックスの要因　長期的要因①
①インターフェイス　顧客とつながる「窓口」 ②インターフェイスに関わる課題 ③インターネットの功罪
第６節 マーケティング・ミックスの要因　長期的要因②
①人 ②物的要因 ③プロセス
第７節 サービスのシステム化
①システムとして働くということ ②価値を保持する　リーダーの役割
第３章 サービスにおける人の役割
第１節 接客についての理解
①接客の誤解をとく ②よい接客とは何か
第２節 よい接客のために
①計画と準備 ②接客力を高めるための努力や工夫
第３節 接客の実践①
①はじめに　接客の本質 ②店内環境の確認
第４節 接客の実践②
①受付の役割と意味 ②顧客の要望を聞く
第５節 接客の実践③
①提案 ②質問
第６節 接客の実践④
①対応が難しいケース ②説明 ③調整
第７節 接客の実践⑤
①謝罪 ②謝罪する理由 ③謝罪のポイント ④フォローアップ
第８節 接客におけるトラブルと対応
①接客に関わるトラブル・事故 ②問題を最小限に食い止めるために ③万一のときのために
第９節 接客で発生が予想される問題

	①顧客の変質によるクレームの深刻化 ②事故 ③その他の問題 第 10 節 問題を深刻化させないための対策・対処 ①対策 ②対処	

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『運営管理』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	美容実習		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	３０単位	授業形態	実習
授業時数	９００時間（１年次３９０時間、２年次５１０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	小田嶋　美佐子	有	美容師	
	佐藤　理恵	有	美容師	
	中村　あかね	有	美容師	

授業概要	美容師国家試験（実技）出題課目を含む、美容師養成施設必修課目
授業の目的	①美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付け、これらの基本的操作を適宜組み合わせて完成させる技術を習得する。 ②美容所における衛生管理の重要性を認識し、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付ける。 ③個々のお客さまの要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付ける。
到達目標	器具の取扱実習 ①美容器具の操作方法、消毒方法、手入れ方法を確実に身に付ける。②用途に適した美容器具の選択方法を理解し、実践する能力を身に付ける。 基礎技術実習 ①美容技術を行う場合の位置、姿勢など美容技術を行う場合に必要な基本動作を身に付ける。②施設の清掃、消毒など美容所の衛生管理のために必要な措置を確実に身に付ける。特に、器具の消毒については、その重要性を十分に認識し、適正な方法で実施することを習慣付けできるようにする。 頭部、顔部及び頸部技術実習 ①スキャルプトリートメント、ヘアトリートメント、ヘアシャンプー・ヘアリンス技術、ヘアカッティング、パーマネントウェービング、ヘアセッティング、ヘアカラーリングなどの基本的な頭部技術を確実に身に付ける。②メイクアップ、まつ毛エクステンションなど、その他基本的な顔部及び頸部技術を確実に身に付ける。 特殊技術実習 エステティック技術、ネイル技術など美容の特殊技術を身に付ける。 和装技術実習 日本髪の結髪技術、かつらのあわせ方、かぶせ方、着付け技術を身に付ける。 総合実習 頭部、顔部及び頸部技術、特殊技術を適当に組み合わせて調和のとれた美容技術を完成させるため、総合的な技術を身に付ける。
授業の進め方	手技及び美容器具の操作ならびに薬剤等の使用による実習で基本的な技術を習得する。実習モデルは、専用のモデルウィッグや人体を模したマネキンを用いるほか、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う場合もある。
時間外学習	積極的かつ地道に努力する姿勢が上達を早めます。基本的な技術の反復練習は自宅においても可能であることから、自主練習を推奨します。
学習相談アドバイス	常に美容技術理論の学習内容を意識し、理論と実習との相互連携による理解を図ってください。

授業計画

配当時間	テーマ・項目・内容	担当教員
	１．シャンプーイング １　クロス掛け ２　ブラッシング ３　すすぎ（サイドシャンプー） ４　シャンプーイング（サイドシャンプー） ５　リンス（サイドシャンプー） ６　タオルドライとターバン（サイドシャンプー） ７　すすぎ（バックシャンプー） ８　シャンプーイング（バックシャンプー） ９　リンス（バックシャンプー） 10　タオルドライとターバン（バックシャンプー）	小田嶋 佐藤 中村

	11　トリートメント	
	2．ヘアカッティング 1　ワンレングスカット 2　グラデーションカット 3　レイヤーカット 4　セイムレングスカット 5　レザーカット	
	3．パーマネントウエービング 1　ブロッキング 2　ワインディング 3　ワインディングのバリエーション	
	4．ヘアセッティング 1　ヘアカーリング 2　ヘアウエービング 3　ローラーカーリング 4　ブロードライスタイリング 5　アイロンセッティング 6　アップスタイル	
	5．ヘアカラーリング 1　酸化染毛剤 2　酸性染毛料 3　塗布技術のいろいろ	
	6．エステティック 1　エステティック備品類 2　フェイシャル及びデコルテマッサージの一例 3　背中のマッサージ 4　フェイシャルパックとマスク 7．ネイル技術 1　ネイルケア 2　アーティフィシャルネイル 3　ネイルアート 4　手と足のマッサージ 8．メイクアップ 1　スキンケア 2　ベースメイクアップ 3　アイメイクアップ 4　アイブロウメイクアップ 5　リップメイクアップ 6　ブラッシュオンメイクアップ 7　ひとりの顔から５つの表情を引き出す 8　特別に輝きたい日のために	
	9．着付け技術 1　留袖着付け技術 2　振袖着付け技術 3　男子礼装羽織、袴着付け技術 4　女子袴着付け技術 5　打掛着付け技術 6　伝統的な花嫁化粧 参考資料　タオル補整	
成績評価方法と基準	1．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること 2．学期末の実技試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『美容実習１』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容実習２』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容技術理論１』　公益社団法人日本理容美容教育センター編	

	テキスト『美容技術理論２』　公益社団法人日本理容美容教育センター編 教材教具
参 考 文 献	

教科課目	英語		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	JACQUES HENRI JOSUE	有	英仏会話講師	３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群
授業の目的	英語などの外国語について、基礎的会話能力を身に付け、語学の学習を通じて外国の文化、生活習慣などに関する理解を深める。 国際的な美容師を目指すために、外国語として英語を学び、美容の仕事のために使う国際英語を身に付ける。
到達目標	①コミュニケーション・ツールとして英語を活用できる。 ②お客様としてヘアサロンに訪れた外国人に、サロンワークで実践できる英語を身に付ける。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。一方的な講義に片寄ることなく、適当な課題を与えて学生同士のディスカッションを促す。
時間外学習	学んだ単語や表現は、多少自分の英語に自信がなくても、恥ずかしがらずに積極的に会話に取り入れて話してみてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	UNIT 1　自分について話そう “Let me introduce myself.” UNIT 2　あいさつ “Nice to meet you,too!” UNIT 3　お客さまを迎える “Welcome to Sunny’s Hair Salon.” UNIT 4　電話での接客 “Thank you for calling.” UNIT 5　コンサルテーション “Would you like a new hairstyle?” UNIT 6　シャンプー＆トリートメント “Is the temperature all right?” UNIT 7　ヘアカット “Can I cut about two inches off?” UNIT 8　パーマ “Have you had a perm before?” UNIT 9　ヘアカラー “How would you like it colored?” UNIT 10　仕上げ “I hope you like it.” UNIT 11　お会計 “Here’s your new member’s card.” UNIT 12　クレーム対応 “I’m sorry for the inconvenience.” UNIT 13　海外研修 “It’s an inspiring experience!” Extra Scenes　サロンの場面から Scene 1　メイクアップ　Makeup	ジャック

	Scene 2　ネイルケア　Nail Care Scene 3　シェービングと衛生　Shaving & Sanitation Scene 4　和装着付と写真撮影 Japanese Kimono Dressing & Photo Shooting Glossary for Hairstylists　理容師・美容師のための「和英 表現集」	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『外国語』 公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	社会福祉		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	今野　悦子			３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群
授業の目的	①私たちの一生の間において、就職や結婚、出産や育児などを経験をするとともに、予期せぬ病気やけが、転職や失業、また、高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面したときに、そのような困難を緩和・軽減し、私たちが安心して安定した生活を送ることができるようにするための社会的な仕組みである社会保障に関する基礎的な知識を身につける。 ②高齢者や障がい者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会に貢献できる。 ③人間は誰しも、歳をとって体が不自由になっても、住み慣れた場所で家族や近所の方々に囲まれて、楽しく自分らしく人生を送りたいと願っており、美容師が従事する整容という仕事が、「誰もが自分らしく生きること」に貢献できる有意義な職業であるという自負をもつ。
到達目標	①「生活水準の低下を防ぐ所得補償」、「傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障」、「高齢者・障がい者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉」など、社会保障の３分野を学び理解する。 ②児童の養育、障がい者のリハビリや職業訓練、高齢者・障がい者に対する介護など、さまざまな個別の生活ニーズに対して、在宅や施設において専門職員によるサービスを受けることができる社会福祉の制度について学習する。 ④わが国は未曽有の少子高齢人口減少社会を迎えており、美容業も競争にさらされ厳しい環境に直面しているが、社会福祉を学ぶことで高齢者や障がい者の方々の心身の特徴を知り、適切な対応ができる技術を身につけて、地域の方々から支持される美容師を目指す。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、各種の統計資料、映像などの視聴覚教材を用いたり、福祉施設、美容所への見学などを行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１章　現代社会と社会福祉 １　私たちと生活問題 ２　社会経済環境の変化 ３　私たちの暮らしを支える社会福祉 第２章　医療保障 １　医療保障制度の概要 ２　医療保険の仕組み ３　公費負担医療 第３章　所得保障 １　所得保障の概要 ２　公的年金 ３　労働保険 ４　公的扶助 ５　社会手当	今野

	第４章　社会福祉 １　社会福祉の概要 ２　児童家庭福祉 ３　障がい者福祉 ４　高齢者福祉 第５章　高齢者と障がい者の体と心 １　高齢者の身体的・心理的特性 ２　障がい者の身体的・心理的特性 第６章　高齢者・障がい者の介助 １　理容・美容における介助の考え方 ２　高齢者に対する介助 ３　障害のある方に対する介助 第７章　高齢者・障がい者に対する理容・美容の実践 １　店内における実践 第８章　理容師・美容師と社会貢献活動 １　社会貢献活動 ２　理容・美容技術を用いた社会貢献活動の実践 参考資料 実践レポートとメッセージ １　ビジネスとしての福祉理容・美容 ２　コミュニケーションの壁を乗り越えて 理容・美容手話メモ	

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『社会福祉』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	ビジネスマナー		
履修年次	１年次	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	安田　智樹	有	理容師、インストラクター	
	佐藤　敏雄（臨時）	有	美容師	

授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群
授業の目的	ビジネスマナーは、あらゆる職業において基礎となるものであることから、社会人としての基本的な一般常識として、美容の現場でお客さまを大切に思う気持ちを伝えるため、競争の激化した美容業の世界で信用を得られる美容師となるために身に付けることを目的とする。
到達目標	①ビジネスマナーの基本となる考え方、仕事に対する基本姿勢、職場に求められる態度、チームワークに必要な人間関係づくりを学び、社会人としての心がけや気を付けるべきことを身に付ける。 ②あいさつやおじぎのしかた、基本的な接客用語、立ち座りの姿勢、ものの受け渡し方など、お客さまの前に立って仕事をするにあたり気を付けたい正しい動作を身に付ける。 ③報告、連絡、相談、クレーム対応、プレゼンテーションなど、仕事でのコミュニケーションの基本を学び、お客さまや目上の方に対する言葉づかいを身に付ける。 ④サービス業における接遇の大切さを美容のさまざまな接客場面を想定して学び、お客さまの状況に合わせて気配り・目配りをし、快適に過ごしていただく心得を習得する。 ⑤会社や店を代表して行う電話対応に求められる基本的な心得、ふさわしい言葉の選び方、相手や状況に応じた会話例を身に付ける。 ⑥訪問、座席の位置、名刺交換、冠婚葬祭など、ビジネス全般において知っておきたいマナーを身に付ける。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。一方的な講義に片寄ることなく、適当な課題を与えて学生同士のディスカッションを促し、実践トレーニングを取り入れる。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１章　社会人としての基本 １　職場での基本モラル ２　職場での身だしなみ ３　職場での人間関係 第２章　正しい動作 １　あいさつ ２　基本動作（立ち姿勢、歩き方、おじぎなど） ３　実践トレーニング 第３章　言葉づかい １　話し方、聞き方 ２　敬語 ３　人の呼び方 ４　実践トレーニング 第４章　接客の基礎 １　接遇 ２　接客対応 ３　実践トレーニング	安田 佐藤

	第５章　電話応対の基礎 　　１　電話の受け方 　　２　電話のかけ方 　　３　実践トレーニング 第６章　一般常識、各種マナー 　　１　名刺交換、紹介、訪問、座席の順番 　　２　冠婚葬祭 参考資料　履歴書の書き方	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『ビジネスマナー』公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	キャリアデザイン		
履修年次	２年次	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	小田嶋　美佐子	有	美容師	３０時間
	佐藤　理恵	有	美容師	
	中村　あかね	有	美容師	

授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群
授業の目的	キャリアデザインは自分の将来像を明確にするために必要なプロセスの一つで「仕事で実現したいことを主体的に設計する」ことが主な概念となります。 美容業に携わるビジネスパーソンとして１年間の目標はもちろん、３年後、５年後、さらには１０年後のキャリア形成まで、積極的に行うことが必要です。 他人任せに自分の将来プランを立てるのではなく､｢自分自身が自らの手で主体的にキャリアをデザインしていく」ことを目的とします。
到達目標	１　職業生活で自分を活かすことへの認識を高める ２　自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを客観的に分析する ３　実際の労働市場の状況を把握する ４　自分の職業人生を自ら主体的に構想・設計する
授業の進め方	テキスト又は資料を使用して講義を行う。 ガイダンス受講や実践トレーニングを取り入れる。
時間外学習	
学習相談アドバイス	在学中の就職活動に活かすことができる大切な授業です。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	１　キャリアデザイン ⑴　キャリアシート作成 自分の経験やスキル、性格、ライフスタイルなどを考慮してキャリアシートを作成する。 ⑵　業界分析 企業等ガイダンス（校内ガイダンス、学外ガイダンス）等を通じて企業等が求める人材像や能力、資格等を把握する。 ２　キャリア形成の実践トレーニング 在学中に自分のキャリアデザインに沿った「自己実現」を可能にするためのプランを考察（資格取得、知識・技術の習得、人間力向上など)。 実践状況について振り返るトレーニングを行う。	小田嶋 佐藤 中村

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．課題・レポート提出・授業におけるプランの実践状況により総合的に評価する。評価は 100 点法により 60 点以上を合格とする。
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『ビジネスマナー』公益社団法人日本理容美容教育センター編 必要に応じて資料を配布
参考文献	

教科課目	パーソナルカラー		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	４０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	野口　典子			４０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	私たちの社会生活に深く関わっているパーソナルカラーについて、実践的な「色彩効果」を中心に学び、美容分野の幅広い仕事に活用できることを目的とする。
到達目標	①JPCA 色彩技能パーソナルカラー検定　モジュール１（初級）合格程度 ②JPCA 色彩技能パーソナルカラー検定　モジュール２（中級）合格程度
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、配色カード等の教材を用いて学習効果を高める。
時間外学習	
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
1	モジュール１　パーソナルカラーとは　　色の効果体験①	野口
2	パーソナルカラーとは　　色の効果体験②	
3	色の属性　色相について	
4	色の属性　明度について	
5	色の属性　彩度について	
6	色の属性　清色・濁色について	
7	色の属性と顔色の見え方①	
8	色の属性と顔色の見え方②	
9	コーディネート　配色について①	
10	配色②	
11	配色技法について①	
12	配色技法について②	
13	色を見るための条件①	
14	色を見るための条件②	
15	色の心理効果①	
16	色の心理効果②	
17	フォーシーズン分類について	
18	フォーシーズン分類活用法	
19	まとめ①	
20	模擬テスト	
21	モジュール２色の属性と顔色の見え方演習（色相）①	
22	色の属性と顔色の見え方演習（明度）②	
23	色の属性と顔色の見え方演習（彩度）③	
24	色の属性と顔色の見え方演習（清色・濁色）④	
25	表色系マンセル	
26	PCCS とマンセル演習①	
27	PCCS とマンセル演習②	
28	色名について	
29	配色技法　アナロジーとコントラスト	
30	仕事に活用する配色	
31	配色演習	
32	色彩調和論	

33 34 35 36 37 38 39 40	色の見える仕組みとパーソナルカラー① 色の見える仕組みとパーソナルカラー② フォーシーズン分類仕事での活用① フォーシーズンアレンジ① フォーシーズンアレンジ② まとめ 模擬テスト 模擬テスト解答解説 毎年 12 月上旬 ※色彩技能パーソナルカラー検定　モジュール１　受験 ※色彩技能パーソナルカラー検定　モジュール２　受験（モジュール１と併願可）	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト　モジュール１（初級） 色彩技能パーソナルカラー検定公式テキスト　モジュール２（中級） モジュール１　配色ワークブック モジュール２　配色ワークブック PCCS 新配色カード 199b	
参考文献	『ヘアスタイル画によるトータルファッション』　公益社団法人日本理容美容教育センター編	

教科課目	イラストレーション		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	演習
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	筒井　義明	有	美術家	３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、一般教養課目群
授業の目的	造形的な創作に携わっている職業は、その創作においてデザイン画を描くということが必要不可欠な条件となります。自分のイメージしたデザインを相手に伝える場合、言葉だけでなくデザイン画をプラスしたほうがより正確に伝えることができます。さらには、思いついたアイディアをイラストによってファイリングすることで、創作に広がりをもたせることもできます。美容師は、髪型（ヘアスタイル）の決定から仕上げまでのすべてをこなす特殊な職業です。お客さまに満足していただくためには、美容の技術的トレーニングも大切ですが、ヘアデザインについての創作的な技術を身につけておくことも重要になります。また、ヘアスタイル画を描きつづけることで顔のバランスやプロポーションに対する理解を深められ、さらにはそれらを正確に観察する力も養われていきます。
到達目標	ヘアイラストレーション ①基礎となる鉛筆の削り方、顔のプロポーションを学び、目、鼻、口などの顔の部分、顔全体、角度の変化による描き方とヘアの描き方ができる。 ②顔の部分練習の応用で細かな表現を学び、眉や目などの顔の部分の配置やヘアスタイルによるイメージの違いを身につけ､同じ顔でイメージを変える技術を身につける。 ファッションイラストレーション 体全体や着衣、また、靴、バッグ、ベルト、アクセサリーなどのグッズの描き方を練習して描けるようになる。
授業の進め方	トレーストレーニング（写して描く）を多用し、描くことが苦手な方にも気軽に練習できるようにします。
時間外学習	毎日毎日の積み重ねによって、スタイル画もセンスも必ず進歩します。
学習相談アドバイス	スタイル画は決して「うまく描かなければならない」というものではありません。子どものころの落書き感覚を思い出して、まず描いてみてください。楽しみながらデザインの技術を身につけていきましょう。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	Hair Illustration １．鉛筆の削り方 ２．顔のプロポーション ３．顔の部分練習　基礎編 ①眼の描き方　②鼻の描き方　③口の描き方 ４．顔の描き方 ５．角度の変化による顔形 ６．ヘアの描き方 ７．いろいろな描き方 ８．顔の部分練習　応用編 ①目の種類　②眉　③鼻　④口 ９．配置によるイメージの違い 10．ヘアスタイルによるイメージの違い 11．同じ顔でイメージを変える Fashion Illustration １．基礎プロポーション ２．プロポーションの理解	筒井

	３．ファッションイラストの部分練習 ４．ファッションイラストの描き方 ５．ファッショングッズの描き方 ６．ファイリング	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．授業の小課題提出と総合課題提出により評価する。評価は 100 点法により 60 点以上を合格とする。	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	鉛筆やトレース紙などによる教材のほか、必要に応じてアクセサリーなどのグッズを使用	
参考文献	『ヘアスタイル画によるトータルファッション』　公益社団法人日本理容美容教育センター編	

教科課目	エステティック技術		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	実習
授業時数	６０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	佐藤　理恵	有	美容師	９０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	美容師養成施設必修課目で習得する基礎的な専門知識や技術とあわせて、エステティック技術についての歴史、現状、目的、種類、特徴、技術上の注意など、より高度なエステティックについて学ぶ。
到達目標	①化粧品や機器、手などさまざまな方法を使ってマッサージやパック等を行うことができる。②エステティックの知識及び技術について、日本エステティック協会認定エステティシャンの資格合格程度を目標とする。
授業の進め方	エステティック技術専用の薬剤や機器などを用いて実習を行う。習熟度に応じて学生の相互モデルによるトレーニングを重ね、エステティック技術を身につける。必要に応じてテキストを使用して講義を行う。
時間外学習	
学習相談アドバイス	エステティックは人の容姿を美しく整えることを目的とした毛髪美粧以外の全身に関わる皮膚の美容法です。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
01～20	認定エステティシャン理論編 １．エステティックとは ２．ホメオスタシスとストレス ３．身体のしくみと働きⅠ ４．身体のしくみと働きⅡ ５．皮膚のしくみと働きⅠ ６．皮膚のしくみと働きⅡ ７．エステティックカウンセリングとは ８．化粧品の種類と働き ９．栄養の知識 10．エステティックにおける衛生と消毒 11．エステティックの基礎知識	佐藤
21～40	認定エステティシャン技術編 12．ボディエステティックの基礎知識 13．フェイシャルエステティックの基礎知識	
41～90	エステティック １　エステティック備品類 ２　フェイシャル及びデコルテマッサージの一例 ３　背中のマッサージ ４　フェイシャルパックとマスク	

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の実技試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『認定ＦＥ　認定ＢＥ　理論と技術』 一般社団法人日本エステティック協会 テキスト『美容技術理論２』 公益社団法人日本理容美容教育センター編 エステティック備品類（化粧品等を含む）
参考文献	

教科課目	美容カウンセリング		
履修年次	２年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	講義
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	佐藤　理恵	有	美容師	３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	お客さまは、きれいに美しくなりたいという期待をこめて美容店に来店するが、カウンセリングは、こうしたお客さまの心の中を的確に知り、よい対応をするための知識や技法を学ぶことである。お客さまの考え、気持ち、ニーズをしっかりと理解して立ち居振る舞うことが、来店したお客さまの満足を深め、不満やトラブルを解消することになる。
到達目標	①美容の仕事において専門的コミュニケーション能力として求められるカウンセリングやコンサルティング方法論を学ぶことで、どうしたら相手を理解することができるか、どうコミュニケーションしたら本当の自分を話してくれるか、また、お互いがどうしたら理解しあえるかを知る。 ②カウンセリングを学ぶことで、自分を見つめ直し、緊張や不安、不満や怒り、ネガティブな感情や思考のセルフコントロールを可能とする。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行う。必要に応じて、映像などの視聴覚教材を用いたり、演習や実験を行ったり、ロールプレイなどを行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	事前にテキストを読んで予習してください。 授業後は、テキスト、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	第１章　カウンセリング概論 １　カウンセリングとは ２　カウンセリングの手法 （１）カウンセリング内容をクライエントの欲求で分ける （２）コンサルティングとは （３）コーチングとは （４）心理カウンセリングとは ３　カウンセリングに必要な基礎知識 （１）個人情報の保護 （２）心の仕組みと働き （３）コミュニケーションとストレスの関係 （４）カウンセリングのプロセス （５）３つの相談技法 ４　カウンセリングの訓練 （１）ロールプレイによる傾聴訓練 （２）エンカウンターグループ （３）スキルアップ訓練 （４）職場で起こるトラブル対応の訓練 ５　職場の精神衛生管理 （１）４つのメンタルヘルスケア （２）ストレス管理 （３）ストレッサーとストレス反応 （４）カウンセリングは重要な職場のシステム	佐藤

	第２章　毛髪・皮膚コンサルティング １　サロンでのコンサルティングの意義 （１）サロンでのコンサルティングの必要性 （２）コンサルティングを正しく行うために （３）コンサルティングを行う際の態度 （４）サロンの繁栄のためのコンサルティング ２　毛髪診断 （１）機器診断と触診 （２）毛髪（髪質）について ３　パーマ施術前のコンサルティング （１）希望の確認 （２）断毛と脱毛 （３）頭皮の確認 （４）薬液の選定と施術料の提示 ４　ヘアカラー施術前のコンサルティング （１）ヘアカラー製品の選定 （２）酸化染毛剤（ヘアカラー）のパッチテスト （３）パッチテストで異常を生じた際の対応と染毛料の使用 （４）染め上がりの色と退色 （５）染毛剤（医薬部外品）の使用上の注意について ５　その他の施術前のコンサルティング （１）シャンプー （２）ヘアトリートメント （３）施術後のヘアデザイン （４）ヘアカット （５）ヘアスタイリング剤 （６）ヘンナ（ヘナ）製品 （７）化粧品の使用上の注意と使用方法 ６　コンサルティングのその他の知識 （１）毛髪の傷みの原因について （２）化粧品、医薬部外品についての正しい知識	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『理容・美容カウンセリング』公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	メイクアップ		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	実習
授業時数	６０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	佐藤　理恵	有	美容師	６０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	メイクアップアーティストの活躍分野はここ数年、急速な広がりを見せていることから、ベーシックメイクアップからステップアップした応用テクニックを学んでいく。
到達目標	①メイクアップアーティストとしての土台となる基本の理論、技術を基に、一般の女性（同世代）に対するナチュラルメイク（修正、印象の変化を含まない）ができるレベル（日本メイクアップ連盟メイクアップ検定３級合格程度） ②基本理論、技術を基とした応用技術で、一般の女性（同世代）からの要望（印象の変化・部分修正）を含むナチュラルメイクができるレベル（日本メイクアップ連盟メイクアップ検定２級合格程度）
授業の進め方	手技及び美容器具の操作ならびに化粧品等の使用による実習で技術を習得する。実習モデルは、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う。
時間外学習	メイクアップのプロをめざす方には、国内はもちろん、ぜひとも世界へも目を向け、流行や技術や、時代の動向に敏感であってください。
学習相談アドバイス	メイクアップは、ともすれば感性や感覚に走りがちですが、どんな人にもどんな目的にも対応できるようになるためには、多面的知識と理論が大切です。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	１　スキンケア 道具と基本テクニック クレンジング トーニング プロテクティング ２　ベースメイクアップ ファンデーションを塗る ファンデーションの塗り分け（多色塗り） 立体感を強調するメイクアップ（ハイライト、ローライト） 陰やくすみを消すベースメイクアップ ベースメイクアップのアクセントカラー パウダリング ３　アイメイクアップ アイラインのテクニック アイシャドーのテクニック 目の表情を変えて見せるテクニック 立体感を際立たせるテクニック アイラッシュカールのテクニック マスカラのテクニック つけまつ毛のテクニック アイメイクアップ・バリエーション ４　アイブロウメイクアップ 眉の整え方 眉の描き方 ３タイプの眉の描き方 ５　リップメイクアップ リップの描き方	佐藤

	リップメイクアップ・バリエーション 6　ブラッシュオンメイクアップ 7　ひとりの顔から５つの表情を引き出す ５つの表情 8　特別に輝きたい日のために ３つのシーンのメイクアップ	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の実技試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『美容技術理論２』 公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『メイクアップ』 公益社団法人日本理容美容教育センター編	
参考文献		

教科課目	まつ毛エクステンション		
履修年次	１年次	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	実習
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	碇子　和哉	有	美容師	３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	①まつ毛エクステンションについての基本的事項は美容技術理論で学ぶが、より高度なまつ毛エクステンションについて目的、種類、特徴、技術上の注意について学ぶ。 ②美容実習で行うこととしている基礎的なまつ毛エクステンションに対し、より高度なまつ毛エクステンションについて、使用される主な薬剤や機器の使用方法や使用上の注意を身に付ける。
到達目標	①「太さ・長さ・カール」といった数種類の人工のまつ毛を組み合わせて使用し、さまざまな好みの目もとを演出する。 ②お客さまの目や目もとの施術であることを十分に理解し、安全・安心を第一とする技術者としての自覚や心構え、配慮を身につける。 ③衛生管理はもちろん、お客さまへのカウンセリング、健康被害のリスクなどの情報提供、眼及びまつ毛の構造や病気とトラブル、皮膚とアレルギーに関する知識、用具などを取り扱ううえでの注意事項を理解する。 ④基本装着から応用まで、目の形や、地まつ毛の状態に合ったエクステンションの提案ができる。
授業の進め方	まつ毛エクステンション練習用ウイッグ（マネキン）などを用いて実習を行う。習熟度に応じてモデルにエクステンションを装着してトレーニングを重ね、デザインテクニックを身につける。必要に応じてテキストを使用して講義を行う。
時間外学習	まつ毛エクステンション練習用ウイッグを使用して自主練習を行うことが有効です。
学習相談アドバイス	お客さまにエクステンションを装着するには、相当な習熟が必要です。学生（初心者）は、安易な気持ちでモデル（人）を使って練習するのは、大変危険が伴うので、絶対に行わないようにしてください。

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	序章　まつ毛エクステンションとは 第１章　まつ毛エクステンションの用具 ①備品　②道具　③用剤　④材料 第２章　衛生管理 ①病原微生物　②消毒　③芽胞　④滅菌　⑤消毒法の種類　⑥消毒の手順 ⑦施術前の手指消毒　⑧器具類の消毒方法 第３章　保健 ①眼に関する知識　②皮膚に関する知識　③まつ毛に関する知識 第４章　カウンセリング ①はじめに　②カウンセリングの留意点　③その他 第５章　まつ毛エクステンション技術 １　まつ毛エクステンションにおける注意 ２　エクステンションの装着の前に ３　エクステンションの装着 ４　装着したエクステンションのリムービング ５　まつ毛エクステンションのトレーニング ６　まつ毛エクステンションのデザイン	碇子

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の実技試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の	

留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『まつ毛エクステンション』 公益社団法人日本理容美容教育センター編 まつ毛エクステンション練習用ウイッグ（マネキン）等の専門用具
参考文献	

教科課目	サロンネイル		
履修年次	１年	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	実習
授業時数	６０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	佐藤　理恵	有	美容師	６０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	ネイル学の基本としてネイルケアの知識を学び、学術的な裏づけをふまえた安全で適切な技術を提供する。さらに、ネイルサロンの主力メニューとなったジェルネイルについて、爪やジェルの成分に関する正しい知識を修得し、お客さまに信頼され、常に満足して頂けるネイリストをめざす。
到達目標	①ネイルケア、ネイルアートに関する基本的な技術及び知識の修得（ＪＮＥＣネイリスト技能検定３級合格程度） ②サロンワークでジェルネイルを施術するために必要な知識と技術の修得（ＪＮＡジェルネイル技能検定初級合格程度）
授業の進め方	手技及びネイル用具の操作ならびに消毒液等の使用による実習で技術を習得する。実習モデルは、ネイル練習用マネキンなどを用いるほか、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う。必要に応じてテキストを使用して講義を行う。
時間外学習	
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	テクニカルシステムベーシック 第１章　基礎理論 １　ネイルの歴史 ２　ネイル技術体系 ３　爪の構造と働き ４　ネイルのための皮膚科学 ５　ネイルのための生理解剖学Ⅰ ６　ネイルのための生理解剖学Ⅱ ７　爪や皮膚の病気とトラブル ８　消毒法 ９　トリートメント理論 10　化粧品学（ネイル用化粧品） 11　色彩理論 12　プロフェッショナリズム 13　ネイルカウンセリング 14　ネイルサロン環境 15　衛生基準と関連法規 第２章　ネイルケア 基本的なテーブルセッティング　ネイルケアの用具・用材と使用目的　その他の道具類と使用目的／カラーリング用品と使用目的　ネイルケアのステップ　手指消毒　ポリッシュオフ　ファイリング　クリーンナップ　カラーリング　カットスタイル別ファイリング　カットスタイル１スクエア　カットスタイル２スクエアオフ　カットスタイル３ラウンド　カットスタイル４オーバル　カットスタイル５ポイント　カットスタイルのレッスン　ハンドトリートメント 第３章　リペア＆イクステンション	佐藤

	リペア＆イクステンションの用具・用材と使用目的 ナチュラルネイルのリペア （グルーオンテクニック） （ラップテクニック）Ａグルー＆フィラー（シルク） （ラップテクニック）Ｂレジン（グラスファイバー） イクステンション（チップ＆ラップ） Step１ チップアプリケーション Step２ Ａグルー＆フィラー（シルク） Ｂレジン（グラスファイバー） 第４章 ネイルアート ネイルアートに使用する用具・用材と使用目的 ネイルアートの基礎知識 水玉 アーガイルチェック 花（バラ） 花（ドロップ型の花びら） 花（リーフ型の花びら） レース 逆フレンチ シェブロン（シボレー） ボーダー チェック ブロッキング 第５章 プロテクニックコレクション ナチュラルフレンチルック ペイントアート エアブラシアート フレンチスタイル アクリルデザインスカルプチュア ミックスメディアアート ジェルアート ジェルデザインスカルプチュア テクニカルシステム～ジェルネイル～ 第１章 ジェルネイル基礎理論 LESSON1.ジェルネイル概論 LESSON2.ジェルネイル材料の基礎理論 LESSON3.ジェルネイル技術体系 LESSON4.爪の構造と働き LESSON5.ジェルネイルの用具用材 LESSON6.ジェルネイル用具の衛生管理 LESSON7.爪の病気 LESSON8.ジェルネイルの安全な施術とトラブル防止 ADVICE ジェルネイルの施術で生じやすいトラブルの要因と対策 第２章 ネイル基本技術 LESSON1.ネイルケア LESSON2.ポリッシュカラーリング LESSON3.ジェルカラーリング 第３章 ジェルイクステンション技術 LESSON1.ジェル クリアスカルプチュアＡ フリーエッジが２～３㎜ LESSON2.ジェル クリアスカルプチュアＢ フリーエッジが１㎝程度 LESSON3.ジェル クリアスカルプチュアＣ オーバルに仕上げる場合 LESSON4.ジェル チップオーバーレイ 第４章 ジェルオフ技術 LESSON1.ソークオフジェルのオフ LESSON2.ハードジェルのオフ LESSON3.ネイルマシーンの基本的な使い方 第５章 ジェルアート技術 LESSON1.グラデーション LESSON2.フレンチカラーリング LESSON3.ピーコック LESSON4.マーブル LESSON5.フラワー LESSON6.グリッターグラデーション LESSON7.モザイクアート 第６章 ジェルネイル用語集 第７章 ＪＮＡジェルネイル技能検定試験について	
成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の実技試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）	
履修上の留意事項		
使用する教材・教具	テキスト『ＪＮＡテクニカルシステム ベーシック』ＮＰＯ法人日本ネイリスト協会 テキスト『ＪＮＡテクニカルシステム～ジェルネイル～』ＮＰＯ法人日本ネイリスト協会 教材教具 ネイルケア用具・用材 ジェルネイル用具・用材 ライト カラーリング用品 ハンドマネキン等	
参考文献		

教科課目	福祉美容		
履修年次	２年	履修区分	必修
単位数	１単位	授業形態	演習
授業時数	３０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	坂谷　優美	有	美容師、訪問美容	３０時間

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	超高齢社会における美容では、介護が必要な人や障がいを抱える人など、自分自身で美容所まで行くことが困難な方への対応が重要となります。美容師として介護施設や在宅ケアが必要な人へ出向き、美容のサービスを提供できる福祉美容の業務は、出張先で美容所と同じようにヘアカット・シャンプー・ヘアカラー・パーマなどを行いますが、美容の専門知識・技術に加え、福祉・医療・介護の分野も学ぶ必要があります。歩くことができる方から寝たきりの方まで、それぞれのお客様の状態に応じた施術を行うことができるように、福祉美容・訪問美容の基礎を身につけることを目的とします。
到達目標	①超高齢社会における美容師の使命を自ら考えることができる。 ②要介護の人や障がいのある人への専門的な美容サービスを理解し、福祉美容の基礎を身につける。
授業の進め方	高齢者や障がい者などの介護・介助の状態に応じた状況を想定した基本的な美容サービスを施術者とお客様の両面から体験する。 必要に応じて、各種の参考資料、映像などの視聴覚教材を用いたり、福祉施設、美容所への見学などを行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	授業後は、ノート、配布資料をもとに授業内容を整理し、わからないことは調べたり、質問したりしてください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	美容サービスと社会貢献活動 美容師の技術を用いた社会貢献活動の実践 高齢者・障がい者の身体的・心理的特性と介助 美容師における高齢者・障がい者に対する介助の考え方 ⑴　コミュニケーション 高齢者・障がい者に対する美容技術 ⑴　美容所の店内における美容技術 ⑵　美容所の店外における美容技術 福祉施設見学	坂谷

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	
使用する教材・教具	テキスト『社会福祉』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	美容師国家試験対策		
履修年次	２年次	履修区分	必修
単位数	２単位	授業形態	講義
授業時数	６０時間		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	小田嶋　美佐子	有	美容師	
	佐藤　理恵	有	美容師	
	中村　あかね	有	美容師	

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	美容師国家試験の筆記試験課目が従来よりも２課目増えて５課目から７課目に変更されたことから、新たな課目を含めた受験対策を徹底し、美容師国家試験の筆記試験合格を確実とする。
到達目標	①美容師国家試験の筆記試験出題課目である「関係法規・制度」、「衛生管理」、「保健」、「香粧品化学」、「美容技術理論」、について、模擬試験に合格できる知識を習得する。 ②美容師国家試験の新たな筆記試験出題課目である「文化論」、「運営管理」について、模擬試験に合格できる知識を習得する。
授業の進め方	テキストを使用して講義を行い、模擬試験を実施する。必要に応じて、各種の統計資料、模型、標本、映像などの視聴覚教材を用いたり、実験や観察を行ったりして学習効果を高める。
時間外学習	２月からは課外学習室を設けます。利用希望者は事前に申し出てください。
学習相談アドバイス	

授業計画

回	テーマ・項目・内容	担当教員
	美容師国家試験における筆記試験の傾向と対策について 模擬試験① 総合講義 模擬試験② 総合講義 模擬試験③ 総合講義 模擬試験④ 総合講義 模擬試験⑤ 総合講義 模擬試験⑥ 総合講義 模擬試験⑦ 総合講義 模擬試験⑧ 総合講義 模擬試験⑨ 総合講義 模擬試験⑩ 総合講義 模擬試験⑪ 総合講義 模擬試験⑫	小田嶋 佐藤 中村

成績評価方法と基準	１．出席時数が本校規定時数の 80%以上であること ２．学期末の筆記試験による評価が 60 点以上であること（100 点法）
履修上の留意事項	

使用する教材・教具	テキスト『関係法規・制度』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『衛生管理』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『保健』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『香粧品化学』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容技術理論１』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『美容技術理論２』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『文化論』公益社団法人日本理容美容教育センター編 テキスト『運営管理』公益社団法人日本理容美容教育センター編
参考文献	

教科課目	美容総合技術		
履修年次	１年次、２年次	履修区分	必修
単位数	３単位	授業形態	実習
授業時数	９０時間（１年次３０時間、２年次６０時間）		

担当教員	氏名	担当教員の主な実務経験		授業時間
	小田嶋　美佐子	有	美容師	
	佐藤　理恵	有	美容師	
	中村　あかね	有	美容師	

授業概要	美容師養成施設選択課目、専門教育課目群
授業の目的	美容業界における最新の技術、知識、取り組み、動向などを学び、さらに美容所における実務経験を通じて、美容師としての実践能力を養う。 必修課目において習得した基本技術を基に、最新の美容師国家試験実技課題合格程度の技能を身に付ける。
到達目標	①必修課目において習得した基本技術を基に、さらに発展させた高度な技術や、美容デザインの最新の動向について理解する。 ②美容所の状況に応じて応用できる基礎的能力を身に付ける。 ③美容師国家試験の実技試験課題である「カッティング」、「ワインディング」、「オールウェーブセッティング」について、模擬試験に合格できる技術を習得する。
授業の進め方	総合美容研修では、デモンストレーションによる学習のほか、手技及び美容器具の操作ならびに薬剤等の使用による実習で最新の技術を体験する。実習モデルは、専用のモデルウィッグや人体を模したマネキンを用いるほか、学習と習熟の状況を十分に確認したうえで学生同士の相互モデルで行う場合もある。 校外実務実習では、学生の技術習熟状況に応じ、管理美容師を配置する美容所において、当該美容所に従事する美容師の適切な指導監督の下、美容行為及びその附随する作業を行う。 美容師実技試験対策では、美容師国家試験の実技試験課題である「カッティング」、「ワインディング」、「オールウェーブセッティング」をについて、シミュレーション形式で模擬試験を行う。
時間外学習	
学習相談アドバイス	

授業計画

配当時間	テーマ・項目・内容	担当教員
	実務実習（校外）	小田嶋 佐藤 中村
	実務実習先の選定	
3時間	実務実習の心得（事前指導）	
6時間	実務実習先訪問（実習前オリエンテーション）	
18時間	実務実習	
3時間	グループワークまたはレポート	
30時間	美容師国家試験実技課題実習 「カッティング」、「ワインディング」、「オールウェーブセッティング」について、シミュレーション形式で模擬試験を行う。	

成績評価方法と基準	実務実習　　指導担当者評価（２０％）　担当教員評価（８０％） 美容師国家試験実技課題演習　　学期末の実技試験により評価 成績評価は 100 点法により 60 点以上を合格とする。
履修上の留意事項	出席時数が本校規定時数の５分の４に達しない者は評価を受けることができない。 正当な理由のない遅刻は、受講を認めない場合があります。 授業中の態度を重視するので、私語や居眠りは厳に慎むこと。
使用する教材・教具	
参考文献	